

アトサヌプリの火山活動解説資料（令和8年1月）

札幌管区气象台
地域火山監視・警報センター

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1-①～③、図2）

監視カメラによる観測では、F1及びF2噴気孔群の噴気の高さは400m以下で経過しており、噴気活動は低調な状態です。

・地震及び微動の発生状況（図1-④、図3）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。震源はアトサヌプリ（硫黄山）付近の浅部及び西側に分布しました。

火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図4）

GNSS連続観測では、2021年秋頃から2023年頃にかけてアトサヌプリ西側（硫黄山の西方約5km）の深部での膨張を示すと考えられる変化が認められましたが、2025年1月頃以降は、アトサヌプリカルデラを囲む基線で、2020年以前と同様に緩やかな短縮が認められます。

この火山活動解説資料は気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』、『電子地形図（タイル）』及び『基盤地図情報』を使用しています。

今回の火山活動解説資料（令和8年2月分）は令和8年3月9日に発表する予定です。

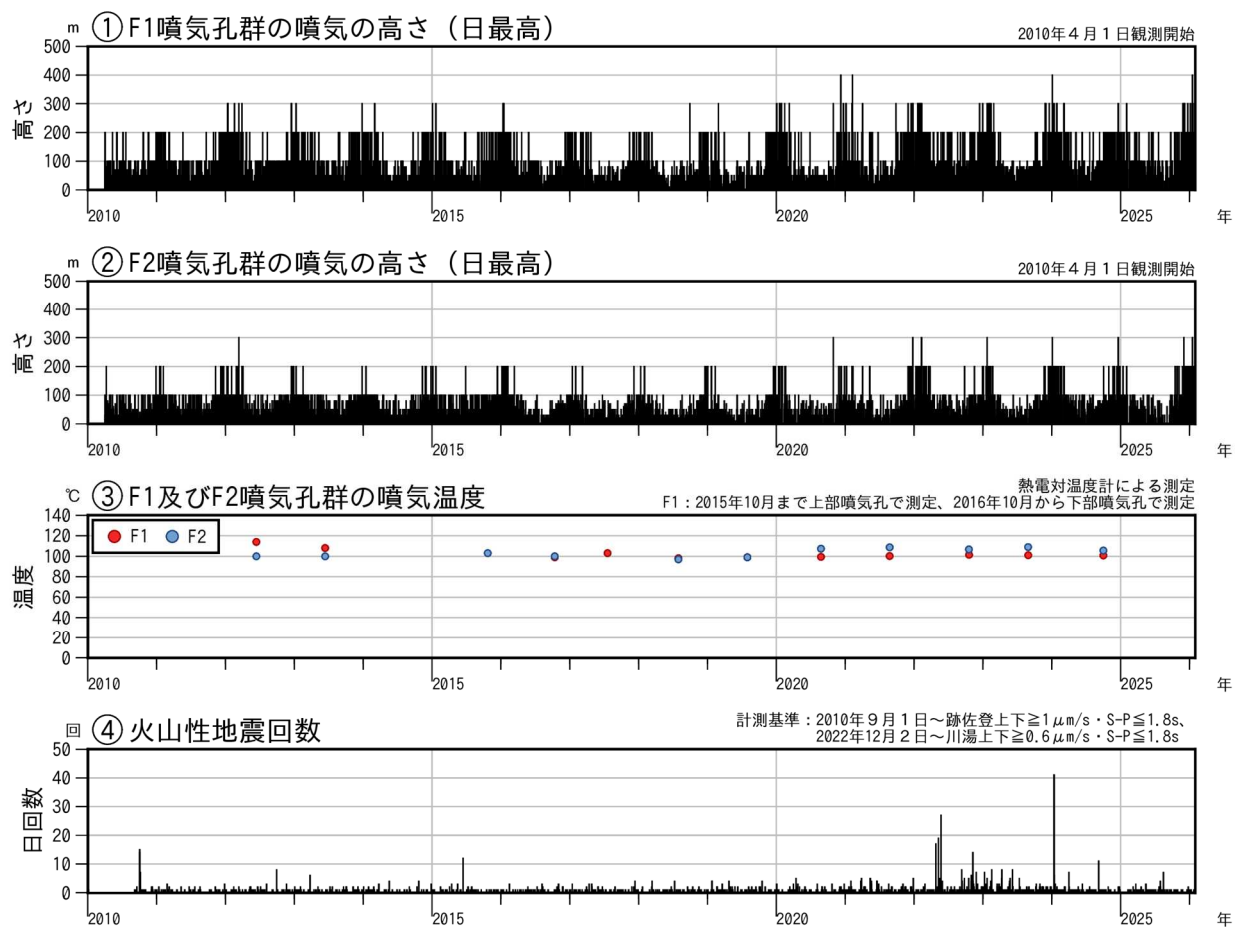


図1 アトサヌプリ 火山活動経過図（2010年4月～2026年1月）



図2 アトサヌプリ 北東側から見たF1及びF2噴気孔群の状況（北東山麓監視カメラによる）

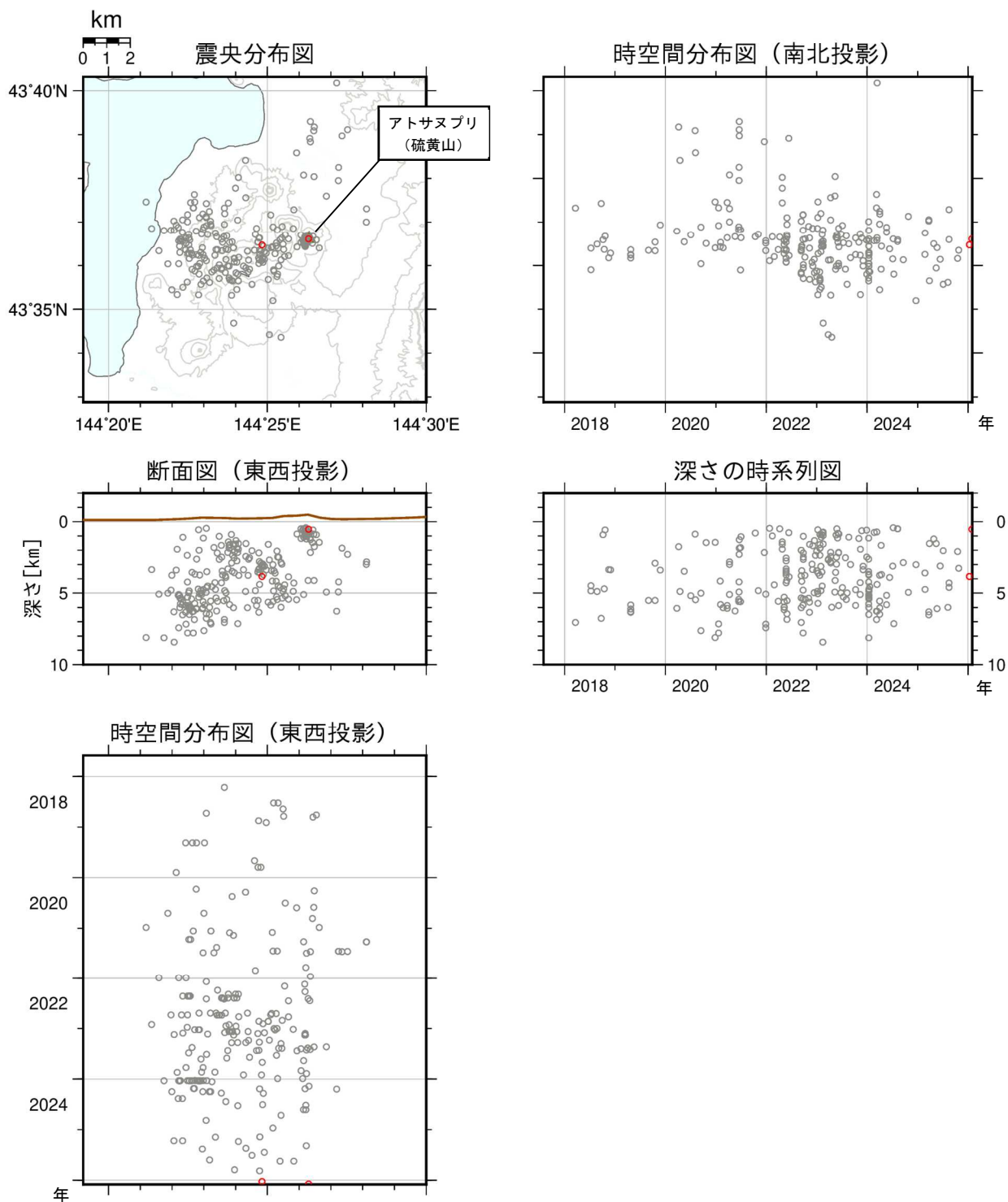


図3 アトサヌプリ 火山性地震の震源分布（2017年8月～2026年1月）
○：2017年8月～2025年12月の震源 ●：2026年1月の震源

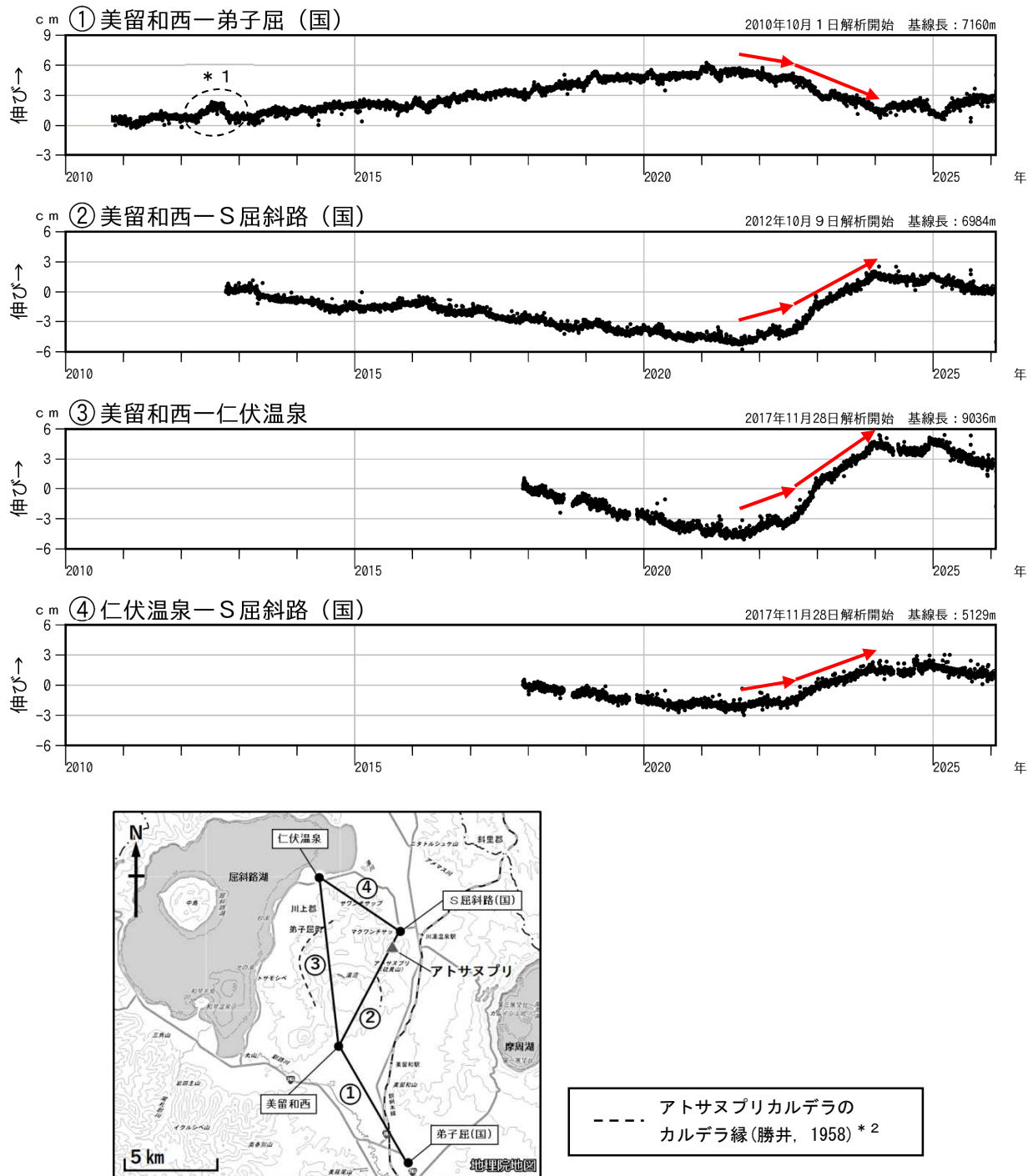


図4 アトサヌプリ GNSS連続観測による基線長変化(2010年10月～2026年1月)及び観測点配置図
冬季に凍上や積雪の影響によって考えられる変動がみられる基線があります。

①の破線内の変動(*1)は、弟子屈(国)付近の樹木の影響及び伐採によるものです。
グラフの空白部分は欠測を示します。

*2 勝井義雄(1958)阿寒・屈斜路火山群、地球科学、39巻。

- ・2021年秋頃から2023年頃にかけてアトサヌプリ西側深部での膨張を示すと考えられる基線長の変化が認められましたが(赤矢印)、2025年1月頃以降は、アトサヌプリカルデラを囲む基線で、2020年以前と同様に緩やかな短縮が認められます。

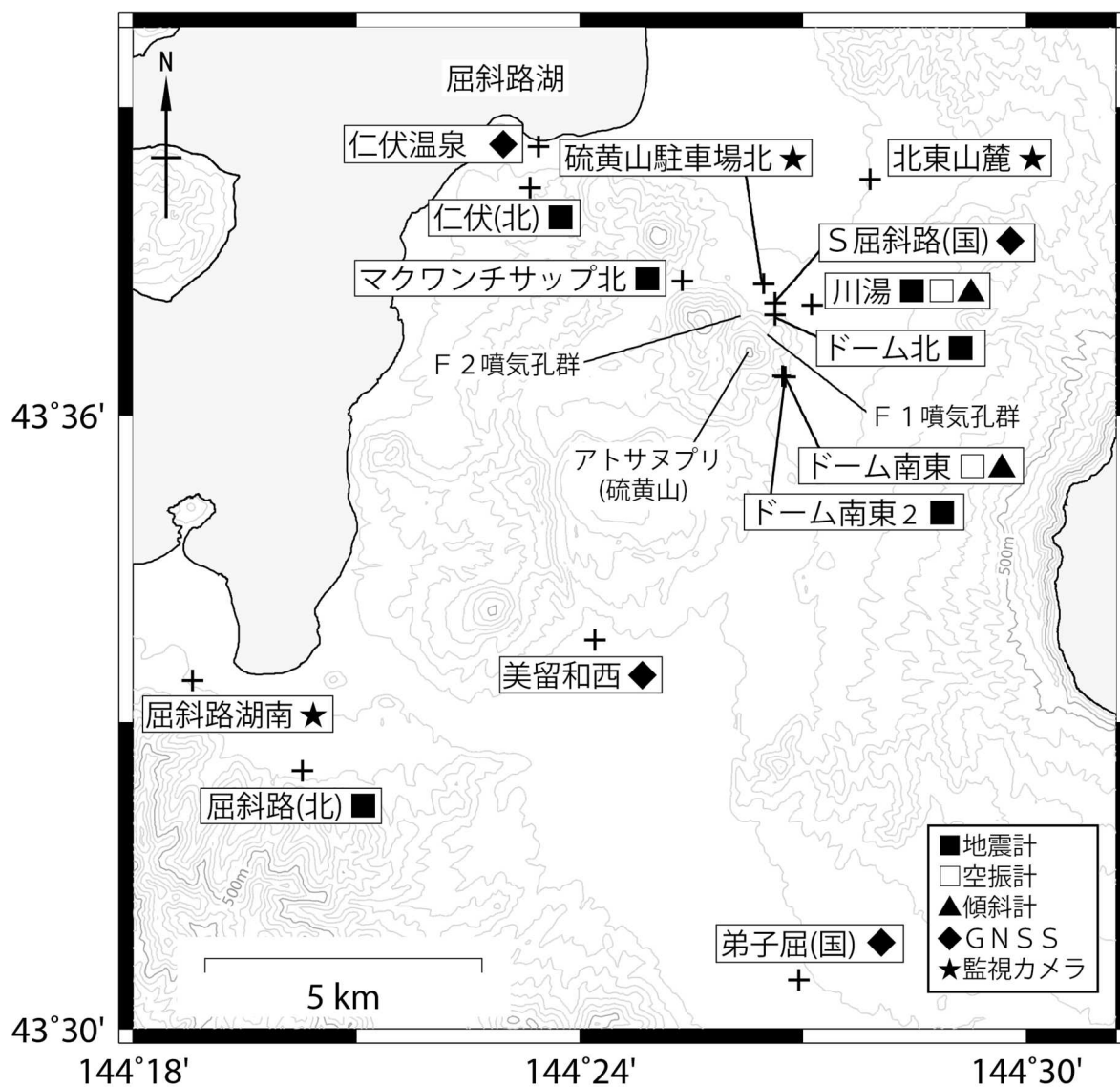


図5 アトサヌプリ 観測点配置図

＋は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国)：国土地理院

(北)：北海道大学